

爵

立憲 明治 甲午 八月 五日
決裁 明治 年 月 日

爵位局長

爵位局長
勅 答

大臣

内事課長

印

次官

元内務技師從五位勲五等早田喜成
外六名叙位一件

官 内 省

五

中
三十八日

三十八日

明治 甲午 八月 五日
録 入 左 右

裏面白紙



元内務技師從五位勲五等早田喜成
外六名叙位ノ件
右謹テ奏ス

明治四十年八月五日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望望

内

閣

明治四十年八月三日

内閣書記官



内閣總理大臣 望

内閣書記官長 望

元内務技師從五位勲五等早田喜成外
六名ハ高等官在職滿十年以上ニシテ勤
勞不尠候處今般豫備並退職退官ニ付敘
位進階内則第四條ニ依リ特旨ヲ以テ位一級
進メラレ然ルヘシ

内閣

從五位勲五等

早田喜成

正六位左

若山茂雄

退職判事正六位勲五等

川北祐利

陸軍三等軍醫正從六位勲四等功留級

澁川釜次郎

海軍中佐左

鈴木多吉

退職検査事左 勲五等

宮川達夫

從六位勲六等

尾野 漸

特旨ヲ以テ位一級被進

從五位勲五等 早田喜成

叙正五位

正六位勲五等

若山茂雄

左 左

川北祐利

叙従五位

従六位勲四等功四級

澁川釜次郎

左 左

左 勲五等

鈴木多吉

左 勲六等

尾野漸

叙正六位

内閣

内務大臣 第四五七號

別紙 早田喜成 叙位 一件

上奏書進達
明治三十年七月八日

内務大臣 原 敬



内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

内務省

32

裏面白紙

正五位在職滿十年以上元内務技師後五位勲五等 早田喜成

右疾病職ニ堪ヘズ退官、處多年奉職勤勞
不勤者ニ付叙位進階内則第四條ニ依リ頭書
ノ通特ニ位一級進メテ度謹テ奏ス

明治四十年七月八日

内務大臣 原

敬


内務省

内務大臣第四八四號

別紙尾野漸

上奏書進達

、件

内務大臣 原 敬



内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

内務省

34

裏面白紙

正六位

在職滿十年以上

元廣島縣佐伯郡長後六位勲六等尾野

漸

右疾病職ニ堪ハス退官ノ處多年奉職勤

勞不尠者ニ付敘位進階内則第四條ニ依

リ頭書ノ通持ニ位一級進メラレ度謹テ奏ス

明治四十年七月二十三日

内務大臣 原

敬



内務省

位第三十一號

一陸軍三等軍醫正澁川金次郎特旨進位之件
右進達候也

明治四十年七月十七日

陸軍大臣寺内正毅



内閣總理大臣候爵西園寺公望殿

陸軍

裏面白紙

裏面白紙

別紙陸軍三等軍醫正澁川釜次郎今般退職被仰付候處
高等官に任せられ以来十年以上在職勤勞不尠者付文武
官叙位進階内則第四條に依り特旨ヲ以テ位一級進メラ
レ度
謹テ奏ス

明治四十年七月十七日

陸軍大臣寺内正毅



陸軍

正六位

明治四十年三月二日豫備

陸軍三等軍醫正從六位勲四等功四級 澁川金次郎

陸軍

裏面白紙

鈴木海軍中佐、本年六月四日豫備役編入、庚明治廿四年一月七日任海軍少尉以來、左官十有六年、以上至、其間明治二十七年、及明治三十七年戰役、從事シ勲績不尠、候ニ付文武官叙位進階由則第四条ニ依リ特ニ位一級被進度別紙上奏、旨進達ス

明治四十年七月十日

海軍大臣齋藤

實



内閣總理大臣候爵西園寺公望殿

海軍

海軍中佐從六位勲四等鈴木多吉

叙正六位

奏ス

明治四十年七月十日

海軍大臣齋藤

實



海軍

裏面白紙

司法省

司法省職壹第(一)二(一)號上奏
右執奏有之度候也

壹件

明治三十一年七月十八日

司法大臣 松田正久



内閣總理大臣 廣善 西園寺公望 殿

司法省職官二四二四號

退職判事檢事進位之儀ニ付上奏

從五位 退職判事正六位勲五等川北祐利

正六位 退職檢事後六位勲五等宮川達夫

右多年高等官奉職勤勞不尠候ニ付

敘位進階内則第四條ニ依リ特旨ヲ以テ

位一級被進度謹テ奏ス

明治四十年七月十八日

司法大臣松田正久



司
法
省

裏面白紙

司
法
省

司法省職壹第一四五九號上奏 壹 件
右執奏有之度候也

明治三十一年七月廿六日

司法大臣 松田 正久



内閣總理大臣 侯爵西園寺公望 殿

司法省職令第一四九號

元典獄進位之儀ニ付上奏

從五位

元典獄正六位勲五等若山茂雄

右多年高等官奉職勤勞不歇候ニ付叙

一位進階内則第四條ニ依リ特旨ヲ以テ位

一級被進度謹テ奏ス

明治四十年七月廿六日

司法大臣 松田正久



司法省